

# Une magie quotidienne

日常の魔法

カラフルで優しい屋根の下で

LA TENTE ISLAISE



子どもも女性も楽しめる  
がる組立可能なカジュアルなテント。日本初上陸  
の島暮らしのエスプリ。



パリ・マルセイユ地区発のブランド「LA TENTE ISLAISE (ラ・タン・トイ・レーズ)」。シンプルながら高いデザイン性を魅力としたテントやバッグ、アパレルなどのラインナップで、広く注目を浴びている。

そのテントの魅力をひとつ挙げると言えたら、きっと困ってしまう。一言では、どうも語りづらさができないから。本質的な由来は、移動手段に自分の足や自転車、船を用いる島の生活だという。どこへでも気軽に持てて行けて、かつ子供でも簡単に楽しみながら折り畳みできる使いの場を作るために生まれたらしい。いわゆる、一般的なキャンプのためのテントではない。思い立った時に思い立った場所で、日ざしや風から身を守り、家族だけでなく友達同士や恋人同士…様々なシチュエーションで、より快適な時間を過ごすための空間=LA TENTE ISLAISEのテント。寝覚、読書、ピクニック、それは、毎日のささやかな場面をも心豊かに楽しむ、というフランス人の愛するラ・イフスタイルにもつながるかもしれません。

加えて、木材・コットン・真鍮・リネンなど上質を追求した使用素材すべてへのこだわり。何年もバージンとして使用し続けることが可能な永続性。そして、何と言つてもこのカラフルで洗練された美しい色たち。

この鮮やかな屋根の下では、健やかさ、優しさ、温かさ…たくさんの魔法にかけられてしまう。生活とは、日常とは、こうして楽しむもののだと、ごく自然に気づかされてしまう。「特別なことってそもそも身近にあるんだよ。」と、そっと耳元で囁かれているような、そんな時間。

家族や気のほかない友人たちと少しでも穏やかで親密な時を過ごしたいという、人としてあたりまえの気持ち。そんな気持ちを形にしたら、きっとこんなテントになるのだろう。

お問い合わせ先 有限公司ボッシュリビング  
Tel: 054-268-7010  
latenteislaise-japon.com/

## ファッショナブルな GETA で楽しむ夏の街歩き

### TOWN × GETA style



「下駄」と聞くと、花火大会や縁日の浴衣姿の足元を思い浮かべる人が多いだろう。もちろんそれはそれで素敵だけれど、mizutori が目指しているのは、現代のライフスタイルや生活シーン…そしてさまざまなファッションにマッチする洒落たデザインと、一日中履いても足が痛くならない履き心地の良さを併せ持つ、オリジナルの GETA。日本のもの作りの新たな伝承として世界中に発信していけたら、とその他の今の願いだそう。この春には、静岡の姉妹都市であるフランス・カンヌ市の夏祭りにも出店し、大好評を得ている。

そのラインナップは、まさに街歩きがより楽しくなりそうなアイテムばかり。ヒールの高さが選べるモダンなデザインが魅力の「SENSE (レディース)」、静岡産のひのきを使用した仲間「茶人 (メンズ)」など、ネーミングも素敵。メンズ物が充実しているのもうれしい。ランチ、ショッピング、美術館など、目的に併せて「今日はどの GETA にしようかな?」と悩むのも、また夏の楽しいひと時になりそう。



SENSE ハミングシリーズ 〈レディース〉  
歩きやすさ+約6.5cmヒールの「下駄はデニムな  
ど普段のお洋服にも合わせやすい」と評判。



茶人 (さじん) 〈メンズ〉  
静岡産ひのきを使用し、雪駄をモチーフに  
仲間の生き方を表現。

お問い合わせ先  
株式会社水鳥工業 geta.co.jp e-mail : info@mizutori.co.jp ONLINESHOP geta-shop.jp

JUIN 2017 No.55

# ORANGE PRESSE maison

TAKE FREE MAGAZINE



Le design est la clé d'une vie meilleure 「デザインは暮らしを楽しくする」をテーマに家づくりをする株式会社オレンジハウスの暮らしジャーナル



不思議なもので、夏が近づくとなぜか心の中のちょっとした冒険心が騒ぎ出す。

それは、きっと私だけではないだろう。

そう、ちょうど真新しい夏休みの絵日記帳を開いた時のよう気持ちは。これから、ここにどんな色の、どんな素敵などが書き込まれていくのだろう？ 夏休みには海水浴やキャンプ、どちらも多いかもしれない。行き先をハンティングして、いろいろな荷物を準備して、車に積んで…。もちろん楽しい時間を過ごし、たくさん

の思い出を増やして、帰路に着く。その時には、真っ黒に日焼けした肌と、かなりの疲労感も一緒に。

夏と聞いて思い起こすのは、エリック・ロメール監督によるフランス映画『夏物語』だろう。英仏海峡に面したリゾート地・ディナールの街が舞台の恋物語で、夏特有のさわやかさと切なさ、交錯したりすれ違う恋する若者たちのみずみずしさ、そしてかわいいブルーのストライプのパラソルやテントが印象的だった。

今年の夏は、そんないつもよりカラフルでカジュアルなテントを抱えて、気軽な自分サイズのアウトドアを楽しんでみたい。あえてめいっぱい準備をして遠くまで行くがなくとも、玄関から一歩外へ出た瞬間から始まる「外遊び」を。

例えば、庭で、ベランダで、公園での小さなピクニックで。ちょっとしたお茶の時間や読書やおしゃべり、そしてお昼寝を、いつもよりちょっとスタイルに満喫してみよう。気分は、さらさら大人の秘密基地。なんだか、わくわくが止まらない。

忙しい日常生活で縮こまっていた心も、豊かに広がっていきそうだ。そんなリラックスした時間の後は、夏のお洒落して街へ散策に出かけてみるのも素敵。

カレンダーと共に、私たちの絵日記はどんどんカラフルにページを進めていく。特別でなかったことがいつしつ特別な事になっていく毎日、うれしい驚きを覚えながら。そう、それは自分だけの夏物語。

太陽が笑顔で見守る下、洗練の冒険が私たちを待っている。